

グリーンポトスニュース

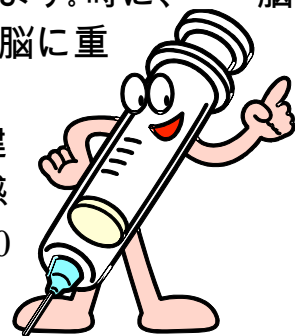
50号：2001年10月

お陰様で、このグリーンポトスニュースも今月で50号になります。開業直後より、月一回、出版してきました。これからも、季節の話題、皆さんが知りたい話題などを中心に出版していこうと思いますので、よろしく御願致します。今月の話題は『インフルエンザ予防接種』です。

インフルエンザ 予防接種

インフルエンザというと、「38~39℃の熱が出て、4~5日寝ていなければならない」こんなイメージがあるのではないのでしょうか。これは、健康成人の症状です。39℃の高熱となれば、健康成人でも、かなりの体力を消耗しますので、これが、体力のない乳幼児や高齢者ではどうでしょうか。生命に危険が及びます。3年前の大流行時、老人ホームなどで、高齢者が集団感染し、多くの方が犠牲になりました。高齢者の場合、高熱に体力が耐え切れず、肺炎を合併します。不幸な場合、死亡するケースもあります。また、乳幼児は、免疫が未熟なため、重症化します。時に、脳炎を起こします。インフルエンザ脳炎は、時に死に至りますし、脳に重篤な後遺症を残すことがあります。

インフルエンザ予防注射は、これらの合併症を予防します。健康成人の場合、感染予防効果は70~90%です。老人ホームでの感染防止効果は、30~40%になりますが、入院を防止する効果は50~60%、死亡を防止する効果は80%に及びます。乳幼児においては、予防接種をした場合、脳炎は、発生しておりません。



インフルエンザになれば、学校や会社を休まなくてはなりません。仕事を休めない方や、特に受験生は、1~2月は受験にとって一番重要な時期になりますので、必ず接種しましょう。体力のない高齢者は、肺炎にならないため、免疫力が不完全な乳幼児は、脳炎にならないためにぜひ、インフルエンザ予防接種をしましょう。

インフルエンザウイルスは、毎年、抗原型を変えます。現在、WHO(世界保健機関)が中心に国際的な協力の中で、ウイルスを同定するため、的中率が上がってきています。ここ数年は、ワクチンと流行株は一致しております。また、合併症も低く抑えられていますので、安心して接種してください。かめざわクリニックでは、毎年10月より接種をしております。気軽にご相談ください

インフルエンザは、主に冬に流行する熱性の疾患です。予防接種は、以前、小中学生を中心に集団接種を行ってきました。しかし、集団感染を防止できないという理由などで、中止してしまいました。そのため、我が国のワクチン生成能力は極端に

落ち、大流行に対応できないようになりました。3年前の大流行は、記憶に新しいのではないのでしょうか。

インフルエンザの怖いところは、死に至る病気であることです。3年前の流行で、体力のない乳幼児や高齢者が死亡しました。乳幼児の死因は、何といたってもインフルエンザ脳炎です。死に至らずも、ウイルスにより重篤な後遺症が残ったりします。高齢者は体力がないため、肺炎を起こします。そのため、入院や不幸な場合、死に至ります。アメリカなどの先進国では、インフルエンザにより、年に10~20万人が入院し、1~4万人も死亡しているとの報告があります。日本でも、同じような状況であると考えられています。

インフルエンザウイルスは、毎年、抗原型を変えるので、予測するのが大変でした。現在は、WHO(世界保健機関)が中心に国際的な協力の中で、ウイルスを同定するため、的中率が上がってきています。ここ数年は、ワクチンと流行株は一致しております。

予防接種の有効性は、ワクチン株と流行株が一致した場合、その感染防止効果は健康成人では、70~90%認められています。老人ホームにおける感染防止効果は、30~40%と低下しますが、入院を防止する効果は50~60%、死亡を防止する効果は80%に認められています。ですから、必ず、接種してください。

かめざわクリニックでは、10月よりインフルエンザ予防接種を実施しますので、ご相談ください。